ハナ・プロジェクト

～スウェーデンへ渡る秋田犬～

桑名秀明さん
（弁天町）

皆さんは、北欧のスウェーデンという国をご存じのことと思います。スカンディナビア半島の中間の国、世界で最も冬の厳しい国の一つでもあります。

二月初旬、この国から大館へ一人の訪問者がありました。名前をヨラン・ベネグレン氏といいます。

ベネグレン氏との記念写真

氏は、スウェーデンの南部、北欧一の港として名高いイエーテボリ（Göteborg）港の代表を務め、国際港湾協会理事としても活躍されている国際的ビジネスマンであります。また、日本の文化に明るい親日家で、日本の外務大臣によって任命された日本国在スウェーデン名誉総領事という肩書きをお持ちのかたでもあります。氏の訪問の目的は、忠犬ハチ公の故郷である大館を一度目のあたりにし、もしでき得れば秋田犬をスウェーデンで飼ってみたいということでした。

氏が訪問されるにあたって橋渡しを努めたのは、私の所属する大館青年会議所の理事長金沢朗さんです。東京在住で、やはり国際的な仕事をされている理事長の従姉からベネグレン氏大館来訪の知らせと、滞在中の案内役の依頼を受けたのは、訪問の三日前のことだったそうです。

外務省から派遣された英語の通訳とともに大館の土（雪）を踏んだベネグレン氏は、理事長の案内で、秋田犬保存会に菅原会長を訪ねたそうです。さらに鉄砲場にお住まいの近藤良雄さん宅で秋田犬の雌の幼犬を見せてもらい、その後、白鳥広場を見学したそうです。私は理事長のお誘いで昼食のときから同席させていただきました。ベネグレン氏は、見るからに温厚そうで、肩書を感じさせないとても気さくなかたでした。自己紹介を終え、ビールで乾杯した後、氏の上手な箸の使い方を見ながら「なぜあなたはハチ公に興味を持たれたのですか」という質問をしてみました。氏は、三島文学や日本人の精神文化に興味があること、また、ハチ公の物語を英訳したものを読んで感動し、日本人の心をそれに見い出したことなど熱心に説明してくださいました。

午後の旧家見学やハチ公の銅像見学を終えたベネグレン氏と、夕飯もご一緒させていただくことになり、氏を囲んで理事長、秋田動物管理センターの茂木獣医師などが交歓しました。きりたんぽ鍋をつつき、地酒をくみ交わしながら大館の印象を伺うと、「七度目の来日にして大館ほど印象の深い土地はない」という嬉しいご返答をいただきました。この夕食会で最も重要な役割を果たしてくださったのは茂木先生でした。先生は秋田犬を愛し、研究したいあまり大館の住民になられたかたで、共に秋田犬に魅せられたかた同士、何か相通ずるものがあったのでしょう。先生の熱心な秋田犬の説明に、ベネグレン氏の心もかたまり、近藤さん宅で初めて接した秋田犬の幼犬「ハナ」がスウェーデンに渡ることとなりました。

氏の帰国後、ハナをスウェーデンに送るのを成功させるために理事長を中心に発足したのが「ハナ・プロジェクト」であります。スウェーデンに日本から動物が輸送されるのはこれが初めてとのことで、検疫などの問題があり、一時はハナを送るのは難しいのではないかと思われたときもありました。しかし理事長と茂木先生のひたむきな情熱によって諸問題も解決し、許可が出しだいハナは旅立ちます。

ベネグレン氏が金沢理事長に書かれた手紙によれば、氏の胸のポケットには常にハナの写真が入っているそうです。また、イエーテボリの大学で講義を受け持たれている氏は、学生にこのいきさつを説明されたので、かの地では、大館とハナのことがちょっとした話題になっているとのことです。

ところで、ハナの血統書名は「王昭君」というのだそうです。王昭君とは、漢の元帝の時代に和睦の印として匈奴の王に嫁いだ美女のことですが、ハナの本名が異郷に嫁いだ彼女と同じだとは感慨深くもあります。王昭君は悲劇の人として扱われておりますが、ハナには、異郷に泣く泣くおもむいた彼女と異なり、ベネグレン氏というやさしい飼い主がいます。

六月七日、ハナに会ってきましたが、すくすくと育ち、出発の日を元気に待っていました。ハナがスウェーデンの人たちに可愛がられ、日本とスウェーデンの友好の花を咲かせることができますよう祈念いたします。

頑張れ　ハナ！

スウェーデンに渡るハナと一諸の桑名リポーター（中央）